

宮町遺跡第 29 次発掘調査現地説明会資料

とき 2001年11月17・18日

1. 調査名称 宮町遺跡第 29 次発掘調査
2. 調査地 滋賀県甲賀郡信楽町大字宮町
3. 調査面積 2,600 m²
4. 調査期間 平成 13 年 4 月 20 日～平成 13 年 12 月末(予定)
5. 調査主体 信楽町教育委員会 教育長 藤井 克宏
6. 調査指導 紫香楽宮跡調査委員会
7. 調査担当 信楽町教育委員会 生涯学習課
8. 調査位置

調査地は、宮町盆地のほぼ中央に位置し、故足利健亮先生がほ場整備前の旧地割畦畔から中心建物があつた可能性を指摘されていた場所になります。

また、奈良時代の遺構配置では、第 28 次調査の西脇殿東側に相当します。

9. 調査の概要

東脇殿 ... 桁行^{けなゆき}6間^{ほん}以上(30.8m) × 梁行^{はりゆき}4 間(11.9m)

第 1 トレンチ南半で検出した南北棟の建物です。

建物全体を確認したものではありませんが、建物の建築様式や柱間寸法が「西脇殿」と同様であることや他の建物との相互の位置関係から、区画の東西で対称をなす「東脇殿」と推測しています。また東西脇殿の建物中軸間の距離は 113.2m(約 37 8 尺)あります。

建物 ... 桁行 5 間以上(20.8m) × 梁行 4 間(11.9m)

第 2 トレンチ南半で確認した 7 間四面の東西棟の掘立柱建物です。

この建物は、検出した東端の柱掘形を基点に東西脇殿の中軸線で折り返せば、東西 9 間(125 尺)となり中心区画の主要な^{てんしや}殿舎と推定されます。

中心区画内での建物位置は、南北方向については、建物北辺が脇殿北辺より約 0.75m 北にあり、東西方向については、脇殿間のほぼ中央にあります。

建物 ... 桁行 9 間(26.7m) × 梁行 4 間(11.9m)

第 2 トレンチ北半で検出した 7 間四面の東西棟の掘立柱建物です。

この建物は、建物 に関連する殿舎と推定されますが、すこし建物規模が小さくなっています。

中心区画内での建物位置は、南北方向については、建物 から 26.7m(90 尺)北にあり、東西方向については、建物 と中心をそろえて並びます。

堀 ・ 門... 堀 検出長 22 間(65.3m)・門 桁行 5 間(14.6m) × 梁行 2 間(5.6m)

第2トレンチ北半で検出した塀と門で、柱掘形の重複関係から建物 を撤去した後、造られたことがわかります。

また、脇殿間の中軸線上には、間口5間の門が設けられています。

10.まとめ

1)紫香楽宮の「朝堂」を発見

今回確認した区画は、左右対称に配置した長大な2棟の南北棟と中央の複数の東西棟で構成されていたことが判明しました。

このような建物配置は、古代の宮殿や役所の中核部分で多く確認されていることや今回の建物規模から考えると、この区画が紫香楽宮の中心区画であると断定でき、『続日本紀』の天平17年(745)正月7日の条に「百官の^{さかん}主典以下を^{ちやうどう}朝堂で^{うたげ}宴す。」と記載されている「朝堂」とは、この区画を指している可能性が高いものと考えられます。(2ページの資料6)

また今回の区画に類似した建物配置をもつ平城宮の馬寮東方東区の遺構(「西池宮」の有力な推定地)では、建物 が後殿の場所に相当することから中心建物は建物の南側にあった可能性があります。

2)中心区画のプラン

A 建物の配置プラン

現地での測量結果や脇殿の長さが旧畦畔の地割から27間(112.3m)と予測されることから中心区画の建物群の配置を図にすると、 期の建物配置は一辺380尺を基準に精密に造営されたと考えられます。(2ページ左の図)

B 2つの造営時期

今回建替え痕跡が見つかったことで紫香楽宮には2つの造営時期があることが判明しました。(2ページ左の図 期・ 期)

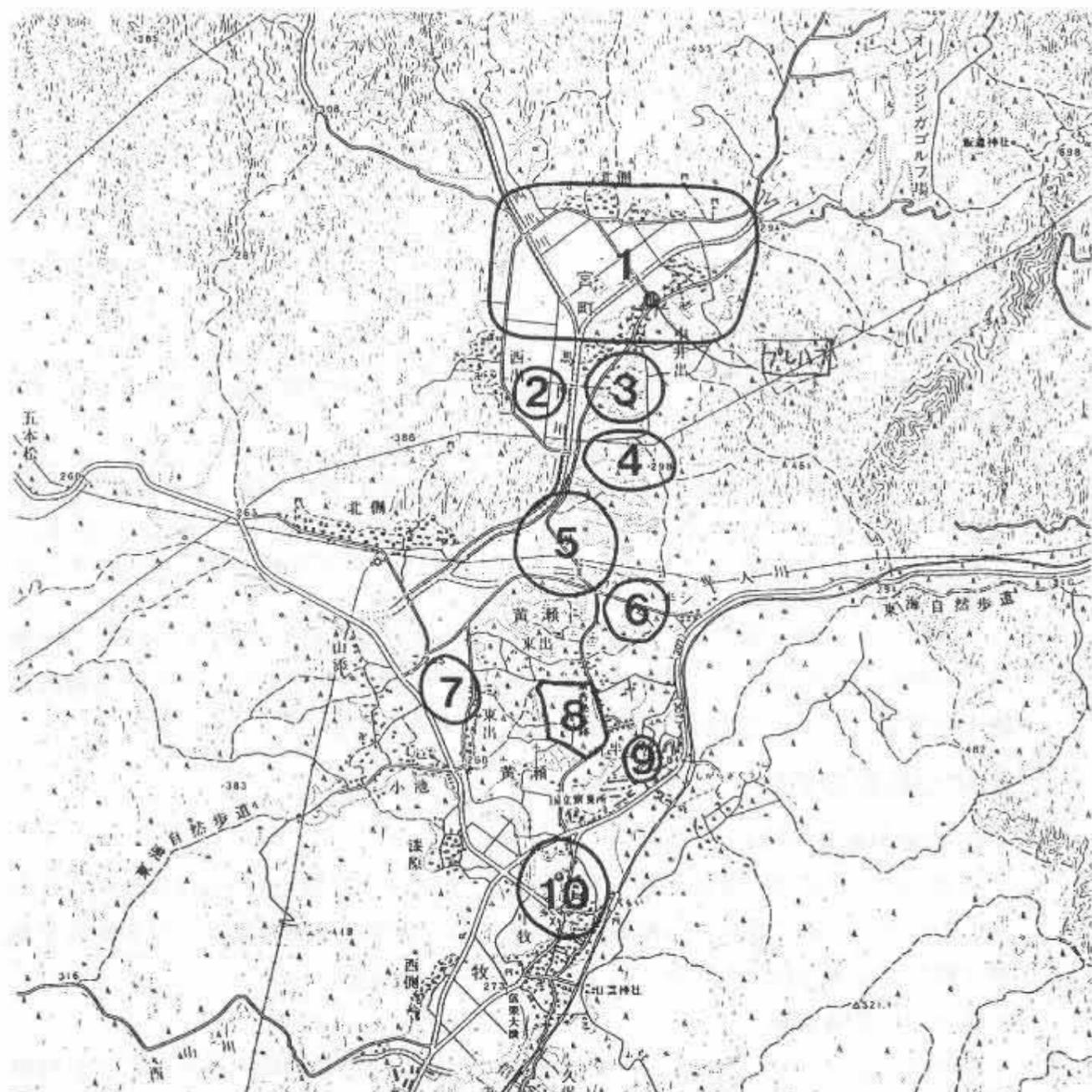
紫香楽宮での造営時期を『続日本紀』などの文献史料で検討すると

天平14年(742)8月の紫香楽宮造離宮司の任命以降

天平15年(743)12月の恭仁宮造営停止以降

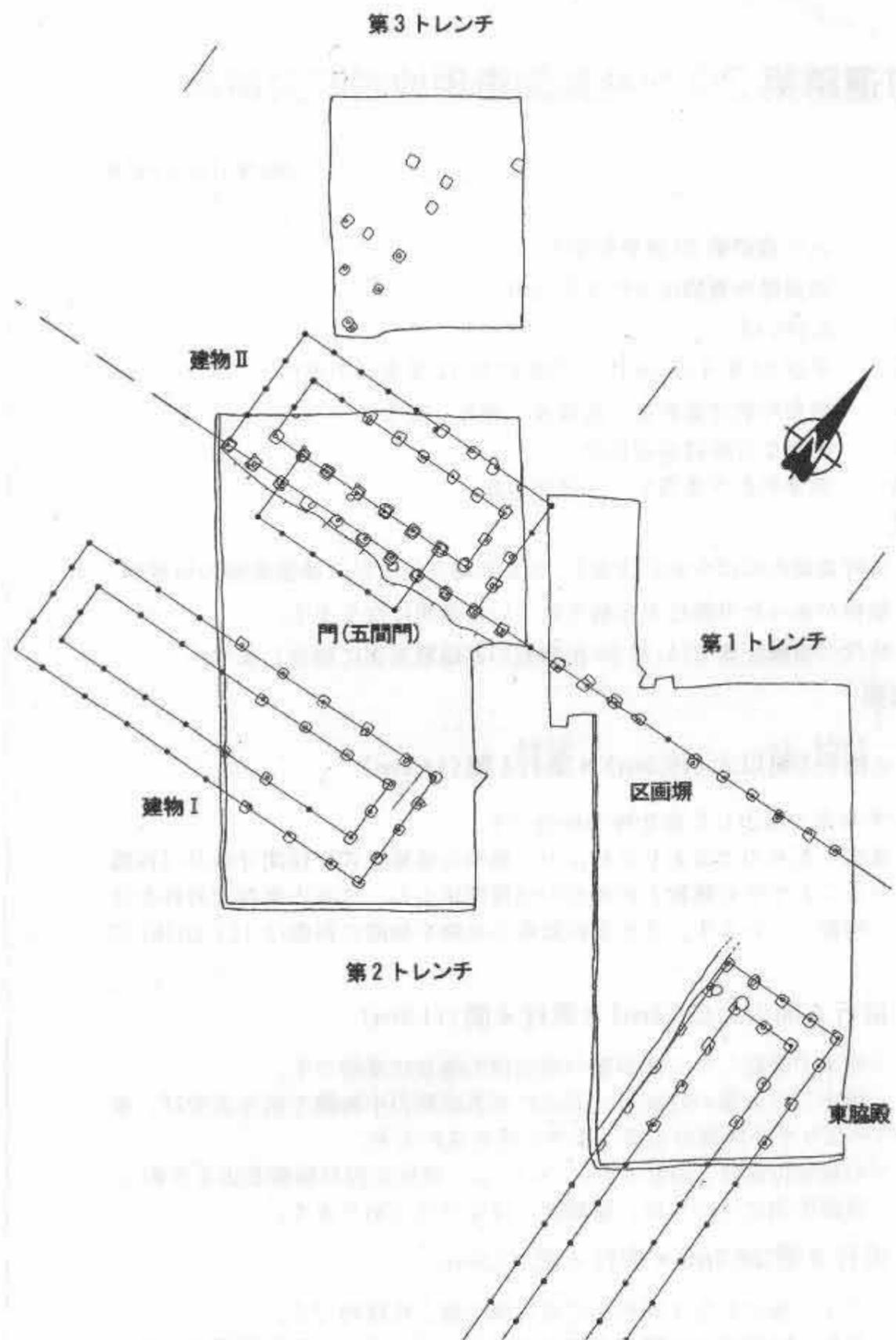
天平17年(745)5月の平城宮遷都以降

の3時期が考えられますが、今回の2時期の遺構がいずれの時期に相当するか、今後も調査を継続した上で検討する必要があります。



- | | |
|-----------|------------|
| 1. 宮町遺跡 | 2. 西出遺跡 |
| 3. 中井出西遺跡 | 4. 沢谷遺跡 |
| 5. 新宮神社遺跡 | 6. 鍛冶屋敷遺跡 |
| 7. 東出西遺跡 | 8. 史跡紫香楽宮跡 |
| 9. 東出遺跡 | 10. 雲井遺跡 |

紫香楽宮跡関連遺跡の遺跡分布 縮尺 1/25,000



宮町遺跡第29次調査
遺構配置図(奈良時代) 縮尺 1/500

紫香樂宮の造営・宮内施設

および行事関連記事(『続日本紀』より)

1 天平十四年(七四二) 八月十一日 行幸と造離宮司の任命
 ○癸未、紫香樂行幸。詔して曰はく、「朕、近江国甲賀郡紫香樂村に行幸せむ」とのたまふ。即ち、造離宮正四位下智努王、輔外從五位下高岡連河内ら四人を造離宮司とす。

2 天平十五年(七四三)十二月二六日 恭仁宮の造営停止

恭仁宮大極殿完成。并せて歩廊を壊ちて恭仁宮に遷し造ること四年にして、茲にその功績かき舉りぬ。用度の費さること勝けて計ふべからず。是に至りて更に紫香樂宮を造る。仍て恭仁宮の造作を停む。

3 天平十六年(七四四) 三月十四日 大般若經を転読

紫香樂宮で大般若經を轉読す。つ。○丁丑、金光明寺の大般若經を運びて紫香樂宮に致す。朱雀門に至る比、雜の衆迎へ奏り、官人迎へ礼ふ。引導して宮中に入れ、安殿に置き奉る。僧二百を讀して転読せしむること一日。

4 天平十六年(七四四) 四月二三日 諸司に公廩錢一千貫をわかつ

諸司に公廩錢一千貫をわかつ。○丙辰、始めて紫香樂宮を營むに、百官成らぬを以て、司別に公廩の錢を給ふ。惣て一千貫。交關して息を取り、永く公用に充てその本を損ひ失ふこと得ざらしむ。毎年に十月を限りて細に本利の用状を録し、太政官に申さしむ。

5 天平十七年(七四五) 正月元旦 「新京」未完成 大極櫓を樹てる。

七四五年 十七年春正月己未の朔、朝を慶む。乍ちに新京に遷り、山を伐り地を開きて、以て宮室を造る。垣墻未だ成らず、繞すに帷帳を以てす。兵部卿從四位上大伴宿禰牛養、衛門督從四位下佐伯宿禰常人をして大きな櫓・槍を樹てしむ。石上・櫻井の二氏は倉平にして泊し樂ふるに及ばず。故、二人をしてこれを見しむ。是の日、五位已上を御在所に宴す。祿賜ふこと差有り。

6 天平十七年(七四五) 正月 七日 大安殿・朝堂で饗宴

○乙丑、天皇、大安殿に御しまして、五位已上を宴したまふ。(中略)……宴訖りて祿賜ふこと差有り。百官の主典已上に朝堂に饗を賜ふ。祿、亦差有り。

7 天平十七年(七四五) 四月 一日 市の西山に火

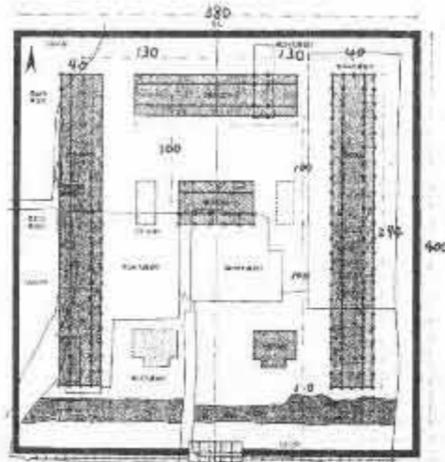
紫香樂宮の西山に山火。夏四月戊子の朔、市の西山に火あり。

8 天平十七年(七四五) 四月 三日 寺の東山に火

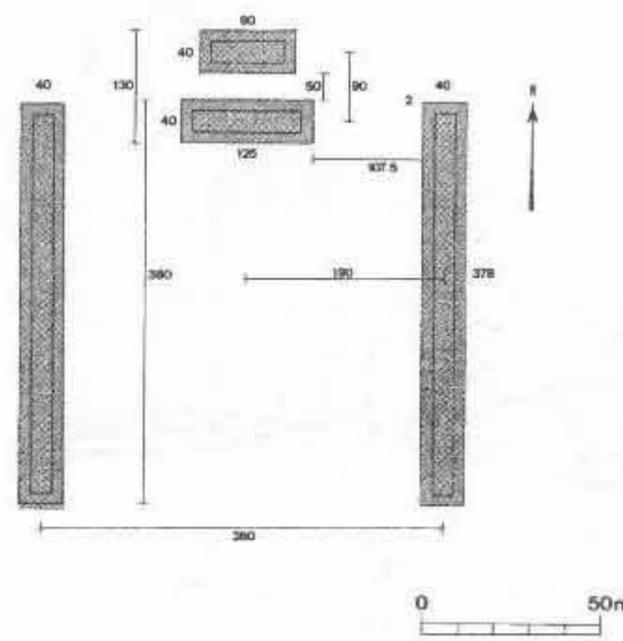
○庚寅、寺の東の山に火あり。

9 天平十七年(七四五) 四月十一日 宮城の東山に火、天皇「大丘野」に

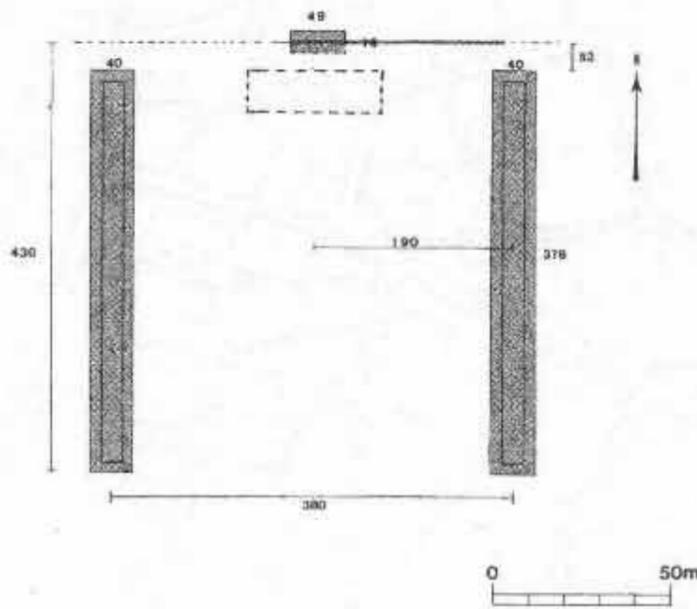
○戊戌、宮城の東の山に火あり。連日きて滅えず。是に、都下の男女、競ひ往きて川に臨みて物を埋む。天皇、繩を備けて大丘野に幸したまはむとす。



馬寮東方東区の建物配置
 いずれも縮尺は1/2000



第I期
 (数字の単位は小尺)
 紫香樂宮(宮町遺跡)中央区画推定変遷図(模式図)



第II期
 (数字の単位は小尺)
 紫香樂宮(宮町遺跡)中央区画推定変遷図(模式図)



宮町遺跡 遺構配置図(奈良時代) 縮尺 1/2500